

企画名：「仏・高速炉開発アストリッド計画」についての渡仏調査、取材及び院内シンポジウムの開催・政策提言

団体名：ストップ・ザ・もんじゅ

1. 報告要旨

ストップ・ザ・もんじゅは全国の様々な脱原発市民グループと連携しながら、日本政府が核燃料サイクル政策から撤退するよう働きかけるべく、院内ヒアリングや市民集会を開催してきた。

「もんじゅ」に失敗しながらも、日本政府は核燃料サイクル政策を維持しようと新高速炉計画を打ち出し、当面はフランスの「アストリッド開発計画」に参入する決定を行った。東電・福島第一原子力発電事故以降、原発再稼働問題は広く世論が意識することとなったが、核燃料サイクル政策の問題点については、脱原発に取り組む市民にも国会議員にもあまり理解されていない。そこで、核燃料サイクル政策の破綻を上塗りすべく出された新高速炉計画の欺瞞を明らかにするために、まずは仏アストリッド開発計画の将来性やプルトニウム政策の問題点を明らかにした。

2017年3月末に渡仏し、スーパーフェニックスの廃炉に関わった方やアストリッド計画の実状に詳しい方を取材（計6名）。取材を通じて、仏電力EDFや原子力巨大企業アレバ（アストリッド開発の中心企業でもある）が深刻な経営危機に陥っていること、アストリッド計画は破棄されるはずだったがその約束が破られたこと、再処理・プルサーマルを続けてもプルトニウムも核のごみも増え続けることなど、重要なことが明らかになった。そのインタビューの重要箇所を中心に編集し、字幕を付けてDVD化した。

取材で明らかになったことをベースに、6月14日には院内ヒアリング集会を実施。集会前半部では仏取材DVDも上映し、参加した市民だけでなく国会議員・秘書の方々にも観て頂いた。また25日には大阪にて近畿経済産業局の担当者に対しヒアリングを実施し、回答不足の点については文書にて再度の回答を求めた。その回答については当団体ホームページに掲載した。院内ヒアリングの様子は「脱原発政策実現ネットワーク・ニュース」No.72に掲載。その後、仏調査及びヒアリング実施をまとめた最終報告書を作成し、国会議員全員に送付した。

2018年2月にも院内ヒアリングを再度開催し、6月に引き続き新高速炉計画をはじめ核燃料サイクル政策の問題点を追及した。ヒアリング開催直前に、アストリッドの出力規模が60万kWから10～20万kW規模へと縮小される見込みがあることも明らかとなったため、その点も含めて追及。同ヒアリングの様子は「脱原発政策実現全国ネットワーク・ニュース」No.77（2018.4.10）に掲載した。

2. 成果物

| |
|--|
| 1. DVD『 未来無き原子力、しがみつく日仏ロビー 』（本編 36分） |
| 2. 仏調査およびヒアリング実施の最終報告書（カラー冊子）『 未来無き原子力、しがみつく日仏ロビー 』 |
| 3. 「脱原発政策実現全国ネットワーク・ニュース」No.70（2017.4.11） |
| 4. 「脱原発政策実現全国ネットワーク・ニュース」No.71（2017.5.25） |
| 5. 「脱原発政策実現全国ネットワーク・ニュース」No.72（2017.7.10） |
| 6. 「脱原発政策実現全国ネットワーク・ニュース」No.77（2018.4.10） |
| 7. インタビュー「 フランス原子力事情調査報告その1 ベルナル・ラボンシュ氏 」（2017.4.5） |
| 8. インタビュー「 フランス原子力事情調査報告その2 モニック・スネ氏 」（2017.5.11） |
| 9. インタビュー「 フランス原子力事情調査報告その3 ノエル・マメール氏ほか 」（2017.6.23） |